

えひめの歴史文化モノ語り

県歴博収蔵資料から ②⑩

本資料は四国八十八カ所 北(讃岐)、右側に南(土) 霊場と遍路道などを描いた 佐)を配置する。九州地方 木版一枚刷りの四国へんろ から四国を眺めたような縦 絵図である。刊記に「四十 長の構図となっている。 三番札所」とあることから、 四国霊場第43番札所の明石 寺(西予市宇和町)周辺で 作成されたものと考えられ る。

四国の形は大きくデフォルトメされ、上側は東(阿波)、 下側は西(伊予)、左側に

十三あびし寺」とある。

明石寺は縁起によると、

円手院正澄という行者が中 国伝来の千手観音菩薩(ぼ さつ)像を祀(まつ)るた

ものなど、数種類が確認で きる。

め、当地に七堂伽藍を建立 したので起源とされる。そ の後、734(天平6)年

1800(寛政12)年の 「四国遍礼(へんろ)名所 図会」には、明石寺参拝後

に寿元という行者が紀州熊 野から十二社権現を勧請。 江戸時代後期には天台宗系

「四国遍礼(へんろ)名所 図会」には、明石寺参拝後 紹介し、周辺に修験者が多 かったことが記されている。

修験道「本山(ほんざん) 派」の拠点として栄えた。

また、1804(文化元) 年の「海南四州紀行」によ

明石寺周辺で発行された 四国へんろ絵図は本図の他

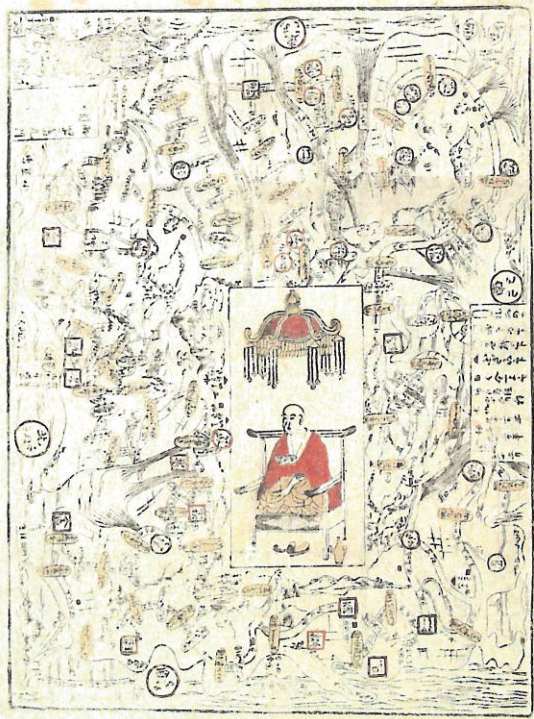
ると、明石寺の仁王門の前 にあった茶堂では浄眼とい う人物が「上中下表具所」

城下、名所、国境、番所な どが描かれ、一部に彩色が 施されている。明石寺は「四 寺の修験寺院名が記された

の看板を掲げ、弘法大師の 御影をはじめさまざまな種 類の土産物を遍路に売って いたことが記されている。

巡拝の拠点 複数種発行

明石寺(西予)と四国へんろ絵図



「四国へんろ絵図」(江戸時代、縦48.1㍍、横36.3㍍)＝県歴史文化博物館蔵

八幡浜港近郊に位置する明石寺は、九州方面からの遍路にとって、順打ちの場合は結願所、逆打ちの場合は打ち始めの札所として、四国巡拝の重要な拠点であった。四国へんろ絵図作成の背景には、明石寺の地理的な要因に加えて、宇和島街道の宿駅で明石寺の門前町であった卯之町の繁栄や、修験者による布教活動との関係性が注目される。

(専門学芸員・今村賢司)

〈随時掲載します〉